

M44-7復刻モデル、JICO「J44A 7 IMP NUDE」で試聴

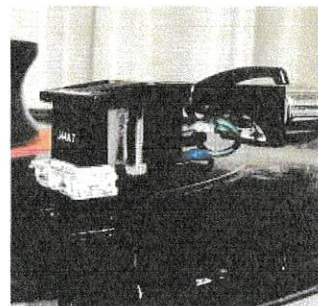
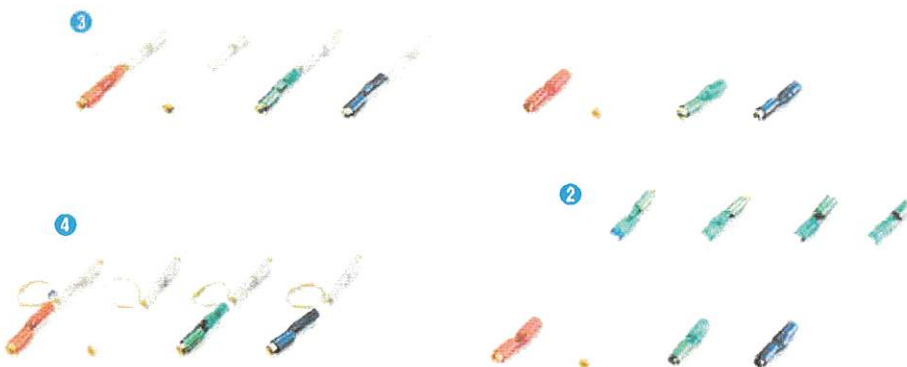
KS-Remastaのハイエンドクラスのリード線で
よりグレードの高いサウンドを目指す

KS-Remasta

Text by
炭山アキラ

Akira Numajima

Main Photo by 田代法生

カートリッジはJICO「J44A 7 IMP NUDE」
+テクニクス製ヘッドシェル 交換針の「N44-7」(無垢丸針、針圧1.5~3.0g)を使用

①KS-Stage221EVO.I

¥27,500(税込)

第二世代Stageシリーズのリファレンスモデル

●導体:海外製高純度OFC鏡面加工仕上げ(直径0.6mm KS-Remasta Stage2グレード)最終仕上げ20000番(6段) ●全長:42mm

②KS-Stage621EVO.I-VK

¥66,000(税込)

第二世代Stageシリーズハイエンドモデル

●導体:海外製高純度OFC鏡面加工仕上げ(直径0.6mm KS-Remasta Stage6グレード)最終仕上げ60000番(10段) ●全長:42mm

<4モデル共通>

長さ100mmまで同一価格で受注

シェルチップ:金メッキリン青銅、カートリッジ側1.2mm、シェル側1.0mm、

テーパ加工(シェル側1.2mmも同一価格で受注)

DL-102等の二又Y字モノラル用も同一価格で受注

③KS-VWS-REXII/N

¥27,500(税込)

VWSシリーズのリファレンスモデル

●導体:1910~30年代ヒンテージワイヤーawg26(直径0.4mm)単線 ●絶縁体:絹糸巻き ●ハンダ:KS-Remasta選定1940~50年代ヒンテージハンタN(ナチュラル、ニュートラル) ●全長:37mm

④KS-VWS-Tempest.I/NVK

¥55,000(税込)

VWSシリーズのハイエンドモデル

●導体:1920~40年代ヒンテージワイヤー(直径0.2mm)単線 ●絶縁体:布(蠟含浸) ●ハンダ:KS-Remasta選定1940~50年代ヒンテージハンタN+VK ●VKは厳選した天然松ヤニ ●全長:37mm

上位へ行くほど
普遍へ近づいていく前号に引き続き、JICOの
復刻盤J44A7を使い、KS

リマスタのハイエンドクラス・シェルリードを聴いていこう。本体より高価なリードもあるが、そんなクラス違いでも持ち味が生きるのでどうかを見極めたい。

まず、前号の最後に聴いたStage121EVO・Iを再び聴いた。音が太く、よく飛ぶ。音像はクッキリと前へ飛び出すタイプだ。艶やかでダイナミックな音が好ましい。

続いて①Stage221EVO・Iを聴いたが、音の太さはそのままに、一体何という鮮明さかと思わず身を乗り出す。ガツと前へ出るパワーを残しながら流麗に鳴り渡るトランペット、サククスは太くまるやかに、しかし勢い良く吹っ飛んでくる。リズムセクションの抜けの良さも一級だ。

お次は少々頭抜けた存在感の②621EVO・I・VKを聴く。最初の一言が出た瞬間、勢い良く流れる都市河川から大河に変わったような余裕とパワーを感じさせる。どんな細かな情報も楽に流れている風情だ。伸びやかで艶やかで、音楽の醍醐味がダイレクトに胸を打つ感じを味わえる。改めて、これは凄い。

続いてはヴィンテージ線とハンダを使ったVWSシリーズを起用する。

まずはSpirit・II Nを聴いたが、試聴に使った現代ジャズへ巧みに艶と洪味を乗せ、聴き心地満点である。うん、ジャズはこつちで聴きたいね、という感じだ。

次は③REXII/Nを聴いた。洪味にスピード感と爆発力が加わり、演奏者がリスナーへより近づいたかのような生々しさが素晴らしい。ある種の万能リードと感ずる。しかし本製音何と部材が底を尽いて残り在庫数セットとか。希望者は急ごう。

最後は④Tempest・I/NVKだ。このリード、聴けば聴くほどヴィンテージ的な旨味と現代性をかくも高度に調和させることができるのかと、しみじみ感じ入る。もう少し元気な、言い替えれば荒れた音の下位リードを好まれる人がおいでかもしれないが、この屈託なく伸び伸びとした音は他をもって代え難い。

柄沢リードは上位へ行くほど「普遍」へ近づいていく。あなたはこの器を生かせるか!